

## 是非を論ずる前にまず石井方式を食べてみてください

「幼児に漢字を教える。」と言えば、従来からの常識からして、とんでもない暴挙だと思うのが、むしろ当然だと思います。

私の主張は、長い実験に基づいて得られた結論であり、必ず世に入れられなければならない真理ではありますが、すぐに今の世の人々が共鳴してくれようとは、初めから期待しておりませんでした。



良し悪しを論ずる前にまず食べてみよう

どんな真理でもそれまで長い期間にわたって人々の頭を支配してきた考え方を変えるためには、常に、驚くほど長い年月がかかっているからです。

人間は、過去の“常識”という固定観念に縛られているため、新しい真理を真理と認めることは、なかなかできないものです。“常識”という色眼鏡を通して見ますから、ほんとうの色がわからないのです。

その上に、人間というものは、自分で実験し、自分の目で確かめてみ

れば容易にわかることでも、物ぐさで、なかなか実験しないものですから、食べてみようとしもない人に、その食べ物の味を教えようとするようなもので、真理を理解させることの困難さは不可能に近いものがあります。

新しい食べ物の味を知ってもらうためには、どうしてもそれを実際に食べてもらう必要があります。食べてみさえすれば、ともかくも味がわかります。味の良い悪いを言うことができます。

世の中には、食べてみもしないで、やれそれは味が悪いのなんのと、無責任に味を論ずる人が何と多いことでしょう。

私は、石井方式の良い悪いを論じてもらう前に、つまり、石井方式の味を論ずる前に、“石井方式を食べてもらう”方法を考えました。それが、前述のような“幼児の実際指導を見てもらう”ことだったのです。

この効果はてきめんでした。食わず嫌いも、一度味を知ったら一変するように、石井方式大反対の園長さんも、一転して礼賛者になり、“石井方式の実践者”になってくれました。

昨年始めたばかりだというのに、わずか一年の間に、百余の幼稚園や保育園の支持を受けるまでに広まったのは、“幼児の実際指導”を見てもらい、その真実の姿を理解していただけたからです。

しかし、“幼児の漢字教室”を、初めて実施することのきっかけを作ってくれたのは、大阪市生野区の小路幼稚園長、井上文克先生です。ここに、井上先生のお書きになった文章により、その間の事情を、皆さんに紹介して、この序章を終わりたいと思います。